



連合徳島

JTUC-TOKUSHIMA

vol. 241

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1
徳島県労働福祉会館内
tel. 088 (655) 4105
fax. 088 (655) 4113
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

発行: 日本労働組合総連合会徳島県連合会
編集責任者 森本佳広

2013年10月30日からの
徳島県の法定地域別
最低賃金

1時間あたり
**666円未滿は
法律違反!!!**



2014春闘共闘会議議長に就任した河村会長

2014春季生活闘争 県共闘会議発足総会

2014春闘 政策・制度 を運動の両輪に

月例賃金にこだわる闘いを

「すべての働く者の処遇を改善し、底上げ・底支え・格差是正実現」をスローガンに12月19日、徳島市阿波観光ホテルで2014春季生活闘争徳島県共闘会議発足総会が開かれ、各構成組織から90人が参加した。冒頭、主催者を代表し河村会長が「2014春闘は労働者の所得向上を実現し、消費マインドの改善、デフレからの着実な脱却をはかり経済の好循環を実現させることが必要。さらに春闘と政策・制度実現の取り組みを運動の両輪として

取り組みを進め、構成組織は月例賃金にこだわるたかいを構築しなければいけない」とあいさつ。総会方針は森本事務局長が提案。定期昇給・賃金カーブ維持相当分約2%確保と過年度物価上昇相当分、生産性向上分などをあわせ賃上げ1%以上を求め、格差是正・分配のゆがみの是正として1%を目安に要求し、回答引き出しを図ることなどを提起するとともに、たたかひの基本的な考え方として、公正で安心・安定的な社会の実現に向

「傷んだ雇用・労働条件」の復元を図るため、闘争体制の確立、中小・地場組合に対する指導・支援体制の強化。とりわけ、中小・地場組合の早期妥結に向けて構成組織間の密接な共闘体制と連携、情報公開を進めていくこと等を説明。具体的には、①非正規労働者を含めた全ての労働者を対象とした賃金・労働条件等の処遇改善、②企業内最低賃金協定の締結と水準の引き上げ、③労働時間の縮減、時間外・休日労働の割増率引き上げ等を、全ての構成組織が取り組むべき課題とした。

また、1月以降の行動計画や闘争体制なども確認し、河村会長が共闘会議議長に就任した。

発足総会終了後、引き続き「労働規制緩和問題に関する研修会」も開かれ、安倍政権が推し進めようとしている、解雇の金銭解決、限定正社員などの首切り自由化、労働者派遣法の見直し

制と連携、情報公開を進めていくこと等を説明。具体的には、①非正規労働者を含めた全ての労働者を対象とした賃金・労働条件等の処遇改善、②企業内最低賃金協定の締結と水準の引き上げ、③労働時間の縮減、時間外・休日労働の割増率引き上げ等を、全ての構成組織が取り組むべき課題とした。

また、1月以降の行動計画や闘争体制なども確認し、河村会長が共闘会議議長に就任した。

発足総会終了後、引き続き「労働規制緩和問題に関する研修会」も開かれ、安倍政権が推し進めようとしている、解雇の金銭解決、限定正社員などの首切り自由化、労働者派遣法の見直し

などの労働者保護ルール改悪について学習を行った。

狭山事件 ドキュメンタリー映画

狭山再審求め上映会

県内4会場で世論喚起

3年かけて製作されたドキュメンタリー映画「SAYAMAみえない手錠」は「金聖雄監督」の上映会(部落解放・人権徳島地方研究会実行委員会主催)が、12月13日・14日の2日間、徳島市、阿南市、藍住町、脇町の4会場で行われ、各構成組織から、のべ826人が参加。会場ロビーでは再審開始に向けた署名活動も行われた。

4会場とも、えん罪被害者である石川一雄さん、妻の早智子さん、金聖雄監督が舞台あいさつを行った。冒頭、主催者を代表し河村実行委員長は「狭山事件発生から50年が経過した。この間、関係団体と連携し、

徳島新聞朝刊に意見広告を掲載してきた。現在15回にわたる三者協議が行われているが、検察のあらゆる矛盾点が浮き彫りになっている。本日の映画上映を契機に、狭山事件の再審実現はもとより、悪質化、陰湿化する部落問題や差別事件、人権問題の一日も早い解決、更には人権啓発の必要性を参加者の皆さんと確認したい」とあいさつ。映画は石川夫妻の日々の生活、一雄さんのえん罪被害者としての苦しみや葛藤、早智子さん自身の生き方などが描かれている。



写真左から 石川一雄さん、河村会長、金監督、石川早智子さん

ドイツ館従業員不当解雇撤回闘争軸に 労働紛争の支援を強化

—連合徳島地域ユニオン第5回定期大会—

2009年に結成され、1人でも誰でも入れる労働組合である連合徳島地域ユニオンの第5回定期大会が、12月7日、労働福祉会館で開かれ、地域ユニオンに加盟する労働組合等から20人が参加した。

大会では、鳴門市ドイツ館従業員不当解雇撤回闘争を軸とする2013年度の活動を総括するとともに、2014年度活動方針、新役員体制を確認・決定した。冒頭、齋藤委員長は「労働者保護ルールの改悪など働

く者を取り巻く情勢は厳しさを増している。職場環境、労働条件の改善をめざし、難局を共に乗り越えていこう」とあいさつ。



新委員長に森本事務局長(写真右)、書記長に田北副事務局長(写真左)を選出



共闘会議の取り組みや基本的な考え方を参加者全体で確認



定期総会には各構成組織から56人が参加

女性役員30%目標に

第4次男女平等参画推進計画スタート

女性委総会

12月4日、労働福祉会館で連合徳島女性委員会第25回定期総会が開催され、56人が参加した。

近藤代議員を選出。冒頭、下委員長（電機連合）が「世界経済フォーラム」が発表したジェンダーギャップ指数は昨年より順位を下げ、105位と先進国では最下位となっている。連合本部に続き、連合徳島も11月より第4次男女平等参画推進計画をスタートさせた。

2020年までに女性役員30%をめざしたい。また大会・地方委員会など女性代議員を増やすためにも「頑張ろう」とあいさつ。続いて、藤田事務局長（UAゼンセン）が2013経過報告、2014運動方針・役員体制、岡田委員（電力総連）が総会宣言をそれぞれ提案。満場一致の拍手で承認された。

公共サービスの必要性 アピール

バス2台にデザイン施し運行

連合徳島 公務労協 良質な公共サービス キャンペーン

連合徳島、徳島県公務公共サービス労働組合協議会、良質な公共サービスを求める徳島県連絡協議会3団体は、12月1日早朝、徳島駅前でラッピングバス運行に伴う記念式典・出発式を行い、各構成組織組合員など関係者約100人が参加した。

式典前段には、公共サービスの必要性・重要性を記載した「ポケットティッシュBOXペーパークラフト」も県民に配布しアピールを行った。



テープカットを行う、左から杉本さん（デザイナー）、氏家公務労協副議長、河村連合徳島会長、藤岡徳島県公務労協議長

私たちの暮らしは公共サービスと切り離すことが出来ず、暮らしの全般をカバーしている。それにより私たちは社会に包摂され、育まれ、暮らしを立てることが可能である。しかし近年、医療・介護・福祉・子育て・教育・交通などの公共サービスが劣化し、格差拡大や貧困などが深刻な社会問題となっている。

以上のことを踏まえ、連合徳島、徳島県公務公共サービス労働組合協議会（以下、公務労協）、良質な公共サービスの確立を求める徳島県連絡協議会（以下、良質な公共サービス提供と地域経済の活性化を求め「良質な公共サービスキャンペーン」）に取り組んでいる。徳島県内においても「公共サービス基本条例」と「公契約条例」の制定が進むよう、

徳島県民や自治体へ情報発信するために、一昨年の11月に先進地の千葉県野田市の根本市長を招いてのシンポジウム、昨年10月には多摩市公契約審議会会長の古川弁護士を招いて「徳島県の公契約条例・公共サービス基本条例をめざすフォーラム」などを開催してきた。

本年度は徳島バスの協力を得、公共サービスの必要性を広く県民に訴えるため、路線バス、高速バス、2台の車体後方に「公共サービスは私たちの生活です」とデザインを施したラッピングバスを運行することとしている。運行期間は12月1日から1年間。路線バスは県内各地を、高速バスは京阪神を走るようになる。

徳島駅前で行われた記念式典・出発式には、連合徳島・河村会長、公務労協・氏家副議長、徳島県公務労協・藤岡議長などが出席。冒頭主催者を代表して、河村会長は「私たちは、生を受けてから終焉を迎えるまで、朝起きて寝るまで、生活していく上で全てが公共サービスと密接に関わっている。質の高い公共サービスの実現をめざし取り組みを積極的に進めていきたい」とあいさつ。

式典終了後、ラッピングバスの出発式を行い、テープカットを行った。



(写真上) 式典前段には、県民にペーパークラフトを配布
(写真下) 式典には各構成組織から約100人が参加

青年委総会

サポート体制を構築

定期的な研修会も実施

12月18日、労働福祉会館で2013連合徳島青年委員会定期総会が開かれ、11構成組織・30人が参加した。冒頭、青年委員会を代表し、小畑委員長（電力総連）が、「活動を充実しサポート体制を構築していきたい」とあいさつ。

総会は、活動報告と活動方針を一括して谷西事務局長（自治労）が提案。1年間の活動を報告・総括すると共に、2014年度活動方針では①幹事会の定期的な開催、青年委員会ニュースの発行、②春季、秋季、女性委員会との合同研修な

どの実施、③連合徳島の基本行事（集会）に対して積極参加、等を確認・決定し、満場の拍手で承認された。質疑では、自治労の代議員から、青年が結集する場の提供について要望が出された。最後に新役員体制を

確認し、小畑委員長の団結ガンバローで閉会した。



小畑青年委員長（電力総連）あいさつ



11構成組織：30人が参加